

タイトル	色眼鏡をかけてない？		
ワークの目的	<ul style="list-style-type: none">● 人間の思考の癖を知り、フィルターを通して世界を見ることの影響を考える<ul style="list-style-type: none">– 自分や他人を客観視する力も育成する		
背景	<ul style="list-style-type: none">● 世の中の膨大な情報を効率的に処理するため、私たちは自分の経験、思い込み、価値観などで構成されたデータベースを使い、簡易的な解釈を行うことで、効率良い行動を自動で促しています● ただ、多様化が進む現代では、違った立場や考えに遭遇することが増え、このような脳の自動運転機能が生み出した解釈が正しいとは限らなくなってきています● 本ワークでは、写真を見ながら「何が起きているか」を参加者に説明してもらい、その発言内容を「事実」「解釈」に分けて考えます● そうすることで、人間が客観的な「事実」よりも「解釈」を優先して状況判断をしてしまっていることに気づき、解釈の裏に隠された思い込みに気づきます。		
対象学年	小学校中学年・高学年	所要時間	40～60 分
準 備	写真、ワークシート、ホワイトボード		
実施内容		支援の観点・留意点	
① 準備			
複数の解釈が考えられる写真を準備します			
<ul style="list-style-type: none">● 以下サイトから3枚の写真を選んでください。 https://www.nytimes.com/column/learning-whats-going-on-in-this-picture 写真の説明は、各写真のページの下部に掲載されていますが、ワーク終了まで絶対に参加者に伝えないでください● 以下は使用する写真の例です。● 1. オーストラリアの農場体験テーマパーク「Paradise Country」にて観光客が羊の毛刈りと雄羊のパレードを見ている場面 (https://www.nytimes.com/2020/02/09/learning/whats-going-on-in-this-picture-feb-10-2020.html)● 2. ロンドン動物園で子供たちが、人間の生息地に関する展示をのぞき込んでいる場面。囲いの中の人動物園の従業員で、展示は人間が世界にもたらす影響を考えさせるためのもの			

<p>(https://www.nytimes.com/2018/01/08/learning/whats-going-on-in-this-picture-jan-8-2018.html)</p> <p>3. アメリカの小学校の生徒たちが、観測ボックスを使って 1979年の部分日食を見ようとしている場面</p> <p>(https://www.nytimes.com/2019/09/08/learning/whats-going-on-in-this-picture-sept-9-2019.html)</p>	
② 導入	
<p><u>趣旨を簡単に説明</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「今日は写真を見ながら自分が物事をどのように見ているのか、考えていきます」 	
③ ワーク 1	
<p><u>写真を1枚見せ、どんな場面なのか問いかける</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「この写真、いったい何が起きている場面なんだろう？ 正解はないから、見て思ったこと、感じたことに言ってくださいね」 <p><u>参加者が言ったことをホワイトボードに「事実」、「解釈・思ったこと」に分けてまとめていく（図1参考）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● この時点では何に分けているかは教えない ● ほとんどの場合、「解釈」の欄が先に埋まります <p><u>書くスペースがなくなってきたら、どう2つに分けたのかと問いかけを行う</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「今2つに分けたけど、これってそれぞれなんだと思う？ 何が違うのかな？」 <p><u>皆の意見を聞いた後、説明を行う</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「実はAは事実、Bは思ったことや解釈です。事実は誰が見ても同じように見える“そのまま”のもの、解釈はそういった見えたものからおもったり、こうじゃないか、かもしれない、と思ったことのことです」 <p><u>事実：誰が見ても同じように見えるもの、客観的事実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> － 例えば1の写真だと、「羊が1匹いる」、「羊が歩いている」、「羊を人が見ている」など <p><u>解釈：事実を見て、私たちが思うこと、「～かもしれない」という推測</u></p> <ul style="list-style-type: none"> － 例えば1の写真だと、「毛刈りかな」、「XX国でやっているのかな」、「きっと見ている人はXX人だ」など、相手に聞く／実際のものであるなど、確認しないと正確に断言できないもの 	<p><u>留意点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発現がない場合、発現をしやすくする声掛けを行う ● 事実、解釈という言葉は難しいので、以下のような表現に置き換えてもよいです <p><u>事実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> － 目に見えるもの － 誰が見てもそう思うもの <p><u>解釈</u></p> <ul style="list-style-type: none"> － 写真を見て思ったこと － ～かもしれないこと

<ul style="list-style-type: none"> ● 「（ホワイトボード等を指しながら）皆の意見の中には、解釈と事実どっちが多かったかな。解釈と事実どっちを先に言うことが多かったかな。私たちは、新しい場面を見た時に、事実をじっくり観察するより、先に私は〇〇だと思う!と解釈することの方が多いかもしいですね。じゃあ、皆が写真の何を見て色々な解釈をしたのか一緒に考えていこう!」 <p>解釈の理由を聞いていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 解釈に対してどういう事実からそれを読み取ったのかを聞き出し、聞き出した根拠をA（事実）の欄に書き込んでいく <ul style="list-style-type: none"> － 例えば「Paradise County」の写真を見て「皆が羊を買おうとしている」という解釈があった場合、「どうしてそう思ったの？」と問いかけ、解釈の基となった根拠（事実）を一緒に探します － 「<u>羊が高い台の上</u>にいて（事実）、<u>羊を見たり写真を撮っている人</u>がいる（事実）から、皆が羊を買うために来ていると思った（解釈）」のように、思ったことと、その背景にある事実を分けて書いていきます 	
④ 振り返り 1（ワーク 1 の解説）	
<p>ここまでの内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ワークを通してものごとには「事実」と「解釈」があることを以下の問いかけを活用して理解してもらう <ul style="list-style-type: none"> － 「私たちは一体、何を見たり感じたりして、「～かもしれない」と考えていると思いますか？」 － 「「写真を見て思ったこと」や「感じたこと」の裏には、私たちが「きっとこうだ!」と思っている思い込み、「前もそうだったから」という経験、「普通はこうだから」という価値観が隠されているみたいです。こんな思い込みや経験が色眼鏡のレンズになるので、世界が皆それぞれ違う色に見えます」 － 「それぞれ違う考え方を持つのはいいことですが、この違いに気づかずに「自分が思っていることは絶対正しい!」と思って他の人と話すとうなりますか」 － 「例えば、初めて会った人を知るためにはどうしたらいいですか。」 － 「友達や先生を正しく理解するためにはどうしたらいいですか。」 － 「ワークを通して、気づいたこと、びっくりしたことはありますか。」 	

⑤ ワーク 2	
<p>新しい写真と別ワークシート（図2）を使い、事実⇒解釈の順番に考える練習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 写真を見ながら、事実だけを言ってもらいます。 ● 事実をもとに2つの解釈を考えます。 <ul style="list-style-type: none"> － 複数の解釈が思いつかない場合が考えられます。もし「Paradise County」の解釈として「皆が羊を買おうとしている」しか意見がなかった場合、事実を取り上げて他の可能性を考えさせます。「皆が羊を買おうとしていると思わない人はいるかな？どこを見てそう思う？」「羊にスマホを向けている人が多いけど、どうしてかな？」「ここはどんな場所だと思う？そういう場所では何をするのかな？」などと問いかけてみてください。または、「好き・嫌い」「面白そう・つまらなそう」「行きたい・行きたくない」など写真を見た時の個人的な感情を聞き、それを記入していくことも可能です。 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事実を言っているときに解釈を言ってしまうことも出てくるので、ワーク1で使った問いかけをし、事実を引き出してあげる。 <ul style="list-style-type: none"> － 「具体的に写真のどこを見てそう思った？」
⑥ 振り返り 2（全体のまとめ）	
<p>学びをまとめ、実生活への活用方法を考えてもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「今日はみんなワークをやってみてどうだった？」 ● 「自分にも、意外と思ひ込みがあることがわかったんじゃないかな」 ● 「何かものをありのまま見ることって少ないよね。周りの人や友達を見るときも、ありのままを見てから考えると、本当のことが見えてくるし、誤解やトラブルもなくなるんじゃないかな。これからも意識していこうね」 	

ワークシート（図1）

A	B

ワークシート（図2）

A（事実）	B（色眼鏡・思ったこと）